

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成22年の素材の需要量（＝供給量）は2,372万4千 m^3 で、前年に比べて92万1千 m^3 （4.0%）増加した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は1,576万2千 m^3 、「合板用」は381万1千 m^3 で、住宅需要がやや回復したことなどから、前年に比べてそれぞれ48万3千 m^3 （3.2%）、70万4千 m^3 （22.7%）増加した。

また、「木材チップ用」は415万1千 m^3 で、前年に比べて26万6千 m^3 （6.0%）減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が66.4%、「合板用」が16.1%、「木材チップ用」が17.5%となった。（表1、図1）

図1 素材需要量の推移

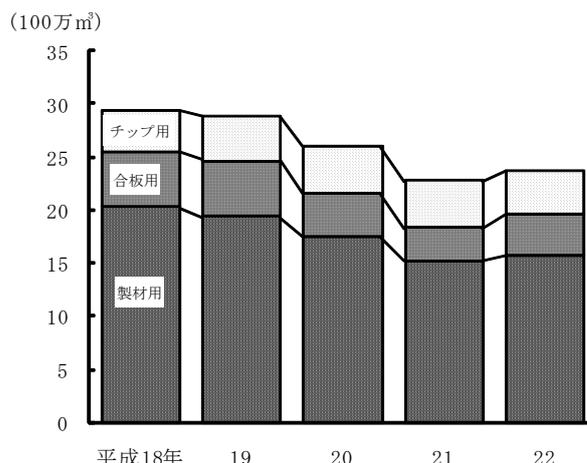


表1 需要部門別素材需要量

単位：千 m^3

年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成22年	23,724	15,762	3,811	4,151
対前年比(%)	104.0	103.2	122.7	94.0
構成比(%)	100.0	66.4	16.1	17.5

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量		2) 製紙パルプ生産量	
	千戸	千戸	千t	千t	千t	千t
平成22年	813	460	27,363	9,392		
対前年比(%)	103.2	107.0	104.2	110.5		

資料：1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

(2) 素材の供給

素材の供給量（＝需要量）は、国産材が1,719万3千 m^3 で、前年に比べて57万4千 m^3 （3.5%）増加した。これは、住宅需要がやや回復したことによる。

また、外材は653万1千 m^3 で、北洋材が減少したものの、米材、ニュージーランド材、南洋材が増加したことから、前年に比べて34万7千 m^3 （5.6%）増加した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は72.5%となり、前年を0.4ポイント下回った。（表2及び3、図2）

図2 材種別素材供給量の推移

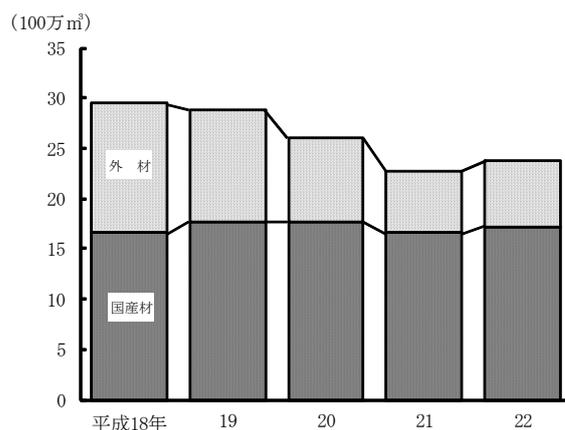


表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千 m^3

年次	計	国産材	外材
平成22年	23,724	17,193	6,531
対前年比(%)	104.0	103.5	105.6
構成比(%)	100.0	72.5	27.5

表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューシ- ラント材	その他	
平成22年												
計	23,724	17,193	14,789	2,404	6,531	526	349	4,013	978	858	156	
製材用	15,762	10,582	10,454	128	5,180	101	7	3,581	545	814	139	
合板用	3,811	2,490	2,476	14	1,321	424	341	412	431	44	10	
木材チップ用	4,151	4,121	1,859	2,262	30	1	1	20	2	x	7	
対前年比(%)												
計	104.0	103.5	105.8	91.0	105.6	106.7	88.6	107.5	87.6	135.3	75.0	
製材用	103.2	103.3	103.7	77.1	102.9	109.8	87.5	101.4	81.2	143.1	80.8	
合板用	122.7	125.8	125.6	200.0	117.1	106.3	88.8	212.4	97.3	68.8	35.7	
木材チップ用	94.0	93.7	96.5	91.6	150.0	50.0	50.0	333.3	66.7	x	87.5	
構成比(%)												
計	100.0	72.5	62.3	10.1	27.5	2.2	1.5	16.9	4.1	3.6	0.7	
製材用	100.0	67.1	66.3	0.8	32.9	0.6	0.0	22.7	3.5	5.2	0.9	
合板用	100.0	65.3	65.0	0.4	34.7	11.1	8.9	10.8	11.3	1.2	0.3	
木材チップ用	100.0	99.3	44.8	54.5	0.7	0.0	0.0	0.5	0.0	x	0.2	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,478万9千m³で、主に「合板用」の生産量が増加したことから、前年に比べて81万3千m³（5.8%）増加した。

これを樹種別にみると、「えぞまつ・とどまつ」、「あかまつ・くろまつ」は、前年に比べてそれぞれ6万7千m³（7.5%）、1万m³（1.4%）減少したものの、「すぎ」、「ひのき」及び「からまつ」は、前年に比べてそれぞれ78万6千m³（9.5%）、7万2千m³（3.7%）、6万2千m³（3.2%）増加した。

また、広葉樹は240万4千m³で、主に木材チップ用の生産量が減少したことから、前年に比べて23万9千m³（9.0%）減少した。（表3及び4、図3）

図3 樹種別素材生産量の推移

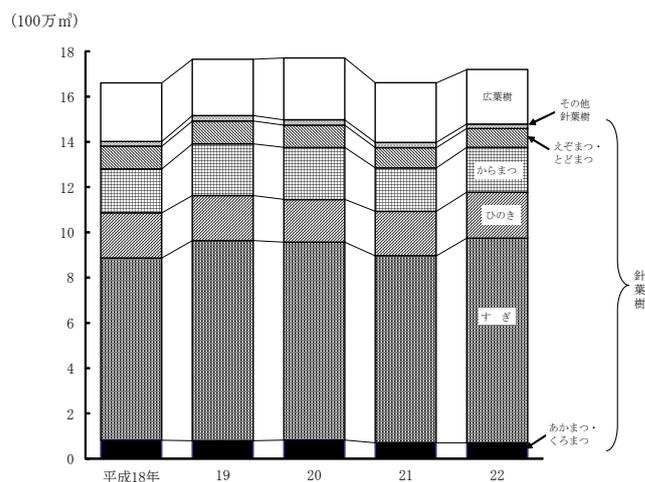


表4 需要部門別、樹種別素材生産量

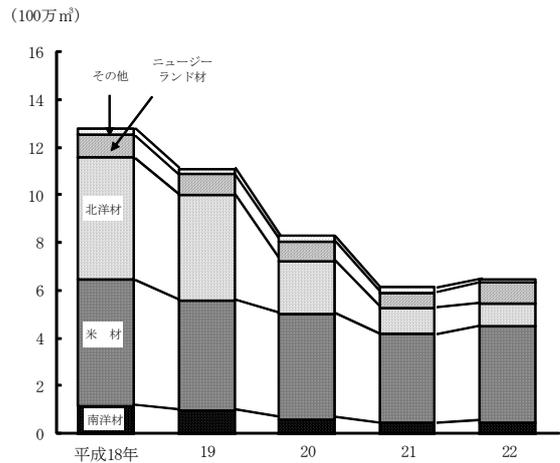
単位：千m³

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成22年									
計	17,193	14,789	694	9,049	2,029	1,985	831	201	2,404
製材用	10,582	10,454	201	6,695	1,784	1,024	695	55	128
合板用	2,490	2,476	107	1,538	113	649	55	14	14
木材チップ用	4,121	1,859	386	816	132	312	81	132	2,262
対前年比(%)									
計	103.5	105.8	98.6	109.5	103.7	103.2	92.5	87.0	91.0
製材用	103.3	103.7	85.5	105.4	102.2	105.5	97.1	94.8	77.1
合板用	125.8	125.6	175.4	130.8	139.5	106.9	183.3	82.4	200.0
木材チップ用	93.7	96.5	94.6	111.0	100.8	90.4	53.3	84.6	91.6
構成比(%)									
計	100.0	86.0	4.0	52.6	11.8	11.5	4.8	1.2	14.0
製材用	100.0	98.8	1.9	63.3	16.9	9.7	6.6	0.5	1.2
合板用	100.0	99.4	4.3	61.8	4.5	26.1	2.2	0.6	0.6
木材チップ用	100.0	45.1	9.4	19.8	3.2	7.6	2.0	3.2	54.9

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、北洋材は97万8千m³で、前年に比べて13万9千m³（12.4%）減少したものの、米材は401万3千m³、ニュージーランド材は85万8千m³、南洋材は52万6千m³で、前年に比べてそれぞれ28万1千m³（7.5%）、22万4千m³（35.3%）、3万3千m³（6.7%）増加した。（表3、図4）

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成22年12月31日現在の製材工場数は6,569工場で、前年に比べて296工場（4.3%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「37.5～75.0kW未満」、「22.5～37.5kW未満」及び「75.0～150.0kW未満」の階層において、それぞれ144工場（6.2%）、80工場（5.7%）、45工場（3.6%）減少した。

製材用動力の総出力数は70万4,380.2kWで、前年に比べて1万6,503kW（2.3%）減少したものの、1工場当たりの出力数は107.2kWで、前年に比べて2.2kW（2.1%）増加した。（表5）

表5 製材工場数、製材用動力の出力数（平成22年12月31日現在）

出力階層	単位	平成22年	対前年比	構成比
工場数計	工場	6,569	95.7	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	784	98.1	11.9
22.5～37.5	〃	1,333	94.3	20.3
37.5～75.0	〃	2,165	93.8	33.0
75.0～150.0	〃	1,196	96.4	18.2
150.0～300.0	〃	641	98.8	9.8
300.0kW以上	〃	450	99.1	6.9
総出力数	kW	704,380.2	97.7	-
1工場当たり出力数	〃	107.2	102.1	-

イ 従業員数

平成22年12月31日現在で操業している工場の従業員数は3万3,479人で、前年に比べて1,491人（4.3%）減少し、1工場当たりの従業員数は5.1人で、前年と同数となった。（表6）

表6 従業員数規模別製材工場数及び従業員数（12月操業）

年次	従業員数規模別製材工場数（12月操業）							従業員数 (12月31日現在)	1工場当たり 従業員数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上		
平成22年	6,519	4,344	1,398	555	134	54	34	33,479	5.1
対前年比(%)	95.5	95.6	92.6	99.8	100.0	100.0	109.7	95.7	100.0
構成比(%)	100.0	66.6	21.4	8.5	2.1	0.8	0.5	-	-

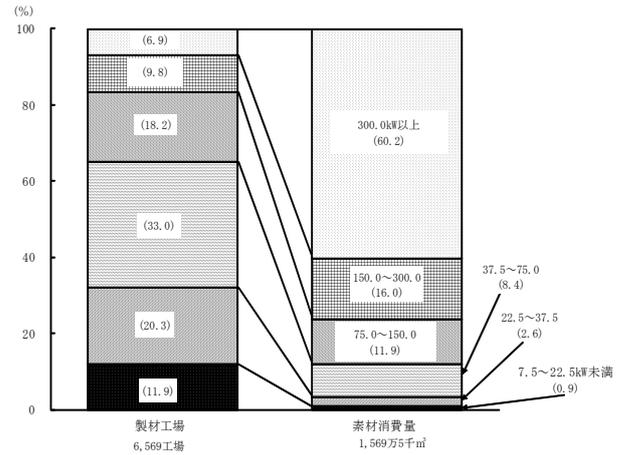
ウ 製材用素材消費量

平成22年の製材用素材消費量は1,569万5千m³で、前年に比べて23万m³（1.5%）増加した。
これを製材用動力の出力階層別にみると、主に、「37.5～75.0kW未満」及び「75.0～150.0kW未満」の階層において、それぞれ12万5千m³（8.6%）、6万8千m³（3.5%）減少したものの、「300.0kW以上」の階層において48万3千m³（5.4%）増加した。
なお、1工場当たりの素材消費量は2,389m³で、前年に比べて136m³（6.0%）増加した。
（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成22年	対前年比	構成比
計	千m ³	15,695	101.5	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	136	84.0	0.9
22.5～37.5	〃	404	90.4	2.6
37.5～75.0	〃	1,322	91.4	8.4
75.0～150.0	〃	1,875	96.5	11.9
150.0～300.0	〃	2,509	100.4	16.0
300.0kW以上	〃	9,449	105.4	60.2
1工場当たり消費量	m ³	2,389	106.0	-

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成22年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成22年の製材用素材入荷量は1,576万2千m³で、前年に比べて48万3千m³（3.2%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,058万2千m³で、前年に比べて33万9千m³（3.3%）増加し、外材の入荷量は518万m³で、前年に比べて14万4千m³（2.9%）増加した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は67.1%で、前年（67.0%）を0.1ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

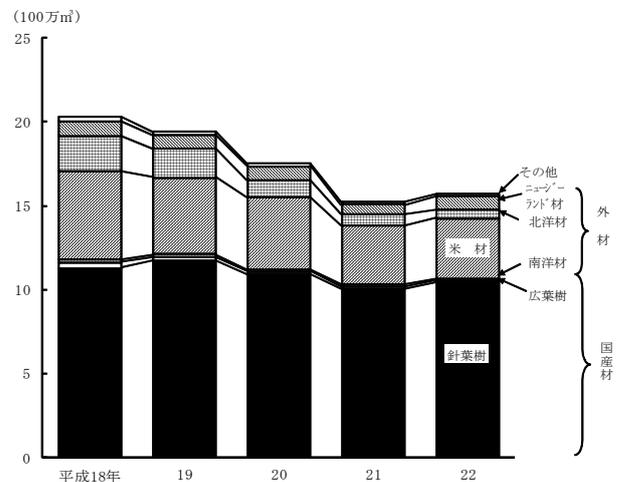


表8 材種別製材用素材の入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成22年	15,762	10,582	10,454	128	5,180	101	7	3,581	545	814	139
対前年比(%)	103.2	103.3	103.7	77.1	102.9	109.8	87.5	101.4	81.2	143.1	80.8
構成比(%)	100.0	67.1	66.3	0.8	32.9	0.6	0.0	22.7	3.5	5.2	0.9

(イ) 素材の入荷があった製材工場は6,486工場で、前年に比べて315工場（4.6%）減少した。
これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,442工場、国産材と外材は1,618工場、
外材のみは426工場で、前年に比べてそれぞれ101工場（2.2%）、99工場（5.8%）、115工場
（21.3%）減少した。

入荷量でみると、国産材と外材は231万4千 m^3 で、前年に比べて87万6千 m^3 （27.5%）減
少したものの、国産材のみは934万4千 m^3 、外材のみは410万4千 m^3 で、前年に比べてそれぞ
れ31万9千 m^3 （3.5%）、104万 m^3 （33.9%）増加した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約6割を
占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成22年								
計	6,486	15,762	4,442	9,344	1,618	2,314	426	4,104
7.5～22.5kW未満	770	128	626	107	114	14	30	7
22.5～37.5	1,340	402	1,039	312	261	79	40	11
37.5～75.0	2,113	1,329	1,361	918	632	323	120	88
75.0～150.0	1,184	1,887	725	1,166	363	511	96	210
150.0～300.0	635	2,503	394	1,637	167	572	74	294
300.0kW以上	444	9,513	297	5,204	81	815	66	3,494
対前年比（%）								
計	95.4	103.2	97.8	103.5	94.2	72.5	78.7	133.9
7.5～22.5kW未満	97.6	84.8	100.8	90.7	85.7	56.0	85.7	87.5
22.5～37.5	96.4	85.7	102.1	95.7	91.9	69.9	45.5	36.7
37.5～75.0	92.2	93.0	90.1	92.0	99.7	97.9	81.6	87.1
75.0～150.0	96.1	96.7	100.1	100.2	94.8	92.2	76.8	90.1
150.0～300.0	98.1	101.2	103.1	101.8	87.9	100.0	98.7	100.3
300.0kW以上	98.2	108.0	103.1	108.2	87.1	51.1	93.0	145.6

注：工場数は、平成22年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は941万5千 m^3 で、前年に
比べて12万4千 m^3 （1.3%）増加した。

出荷量を用途別にみると、「建築用材」
及び「家具・建具用材」の用途において、
それぞれ2万9千 m^3 （0.4%）、3千 m^3
（4.2%）減少したものの、「木箱仕組板・
こん包用材」及び「土木建設用材」の用
途において、それぞれ10万 m^3 （10.1%）、
2万3千 m^3 （6.4%）増加した。

また、人工乾燥材出荷量は254万4千 m^3 で、
前年に比べて26万4千 m^3 （11.6%）増加し、
出荷量計における人工乾燥材出荷量の割合
は27.0%と前年に比べて2.5ポイント上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

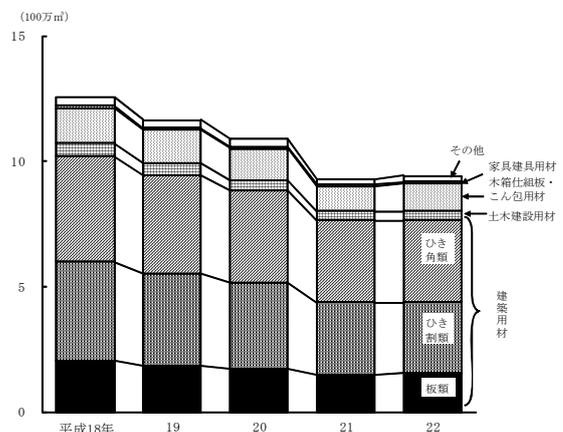


表10 用途別製材品出荷量

年次	単位：千 m^3									
	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成22年	9,415	2,544	7,642	1,551	2,817	3,274	380	1,087	69	237
対前年比（%）	101.3	111.6	99.6	103.8	97.2	99.9	106.4	110.1	95.8	116.2
構成比（%）	100.0	27.0	81.2	16.5	29.9	34.8	4.0	11.5	0.7	2.5

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成22年12月31日現在の合単板工場数は192工場で、前年に比べて16工場（7.7%）減少した。

これを製造種類別にみると、普通合板のみ製造している工場は4工場（12.1%）増加したものの、単板のみ製造している工場、普通合板と特殊合板を製造している工場及び特殊合板のみ製造している工場において、前年に比べてそれぞれ7工場（35.0%）、2工場（40.0%）、11工場（7.3%）減少した。

合単板工場の従業者数は8,024人で、前年に比べて897人（10.1%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は41.8人で、前年に比べて1.1人（2.6%）減少した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成22年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	192	92.3	85	63	17	21	3	3	8,024	89.9	41.8
単板のみ	13	65.0	6	4	1	2	-	-	474	60.5	36.5
普通合板のみ	37	112.1	-	14	7	14	1	1	1) 4,108	1) 92.1	1) 102.7
普通合板と特殊合板	3	60.0	-	-	1	1	1	-
特殊合板のみ	139	92.7	79	45	8	4	1	2	3,442	93.6	24.8

注：1) は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成22年の単板製造用素材の入荷量は381万1千m³で、前年に比べて70万4千m³（22.7%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は249万m³、外材は132万1千m³で、前年に比べてそれぞれ51万1千m³（25.8%）、19万3千m³（17.1%）増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は65.3%で、前年（63.7%）を1.6ポイント上回った。

（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

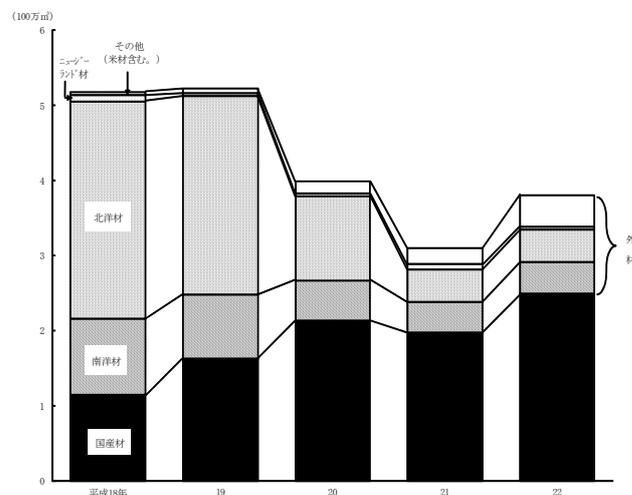


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成22年	3,811	2,490	2,476	14	1,321	817	424	341	412	431	44	10
対前年比(%)	122.7	125.8	125.6	200.0	117.1	121.6	106.3	88.8	212.4	97.3	68.8	35.7
構成比(%)	100.0	65.3	65.0	0.4	34.7	21.4	11.1	8.9	10.8	11.3	1.2	0.3

ウ 普通合板生産量

平成22年の普通合板生産量は264万5千 m^3 で、前年に比べて35万8千 m^3 (15.7%) 増加した。厚さ別にみると、「3～6mm未満」の階層で、前年に比べて2千 m^3 (2.4%) 減少したものの、「12mm以上」及び「6～12mm未満」の階層で、前年に比べてそれぞれ35万 m^3 (18.8%)、9千 m^3 (2.9%) 増加した。

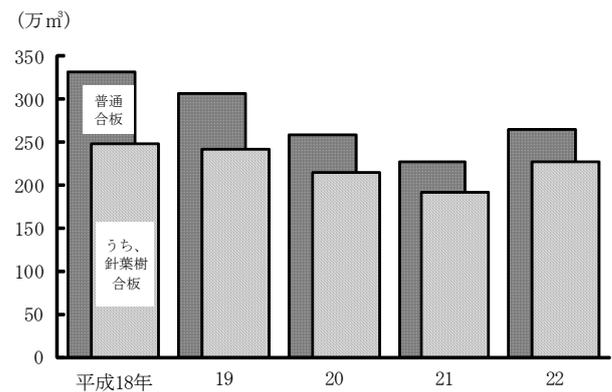
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は228万1千 m^3 で、前年に比べて35万3千 m^3 (18.3%) 増加した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は86.2%で、前年 (84.3%) を1.9ポイント上回った。(表13、図9)

表13 普通合板生産量

区 分	平成22年	対前年比	構成比
	千 m^3	%	%
普通合板生産量	2,645	115.7	100.0
3mm未満	25	104.2	0.9
3～6mm	80	97.6	3.0
6～12mm	324	102.9	12.2
12mm以上	2,216	118.8	83.8
うち針葉樹合板	2,281	118.3	86.2

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

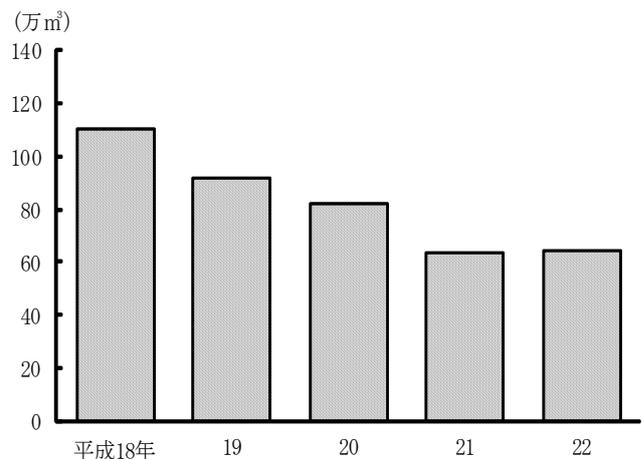
平成22年の特殊合板生産量は64万7千 m^3 で、前年に比べて1万1千 m^3 (1.7%) 増加した。

これを種類別にみると、プリント合板及び塗装合板において、前年に比べてそれぞれ1万1千 m^3 (15.7%)、4千 m^3 (30.8%) 減少したものの、その他の合板及びオーバーレイ合板において、前年に比べてそれぞれ2万5千 m^3 (5.0%)、3千 m^3 (17.6%) 増加した。(表14、図10)

表14 特殊合板生産量

区 分	平成22年	対前年比	構成比
	千 m^3	%	%
特殊合板生産量	647	101.7	100.0
オーバーレイ合板	20	117.6	3.1
プリント合板	59	84.3	9.1
塗装合板	9	69.2	1.4
天然木化粧合板	31	93.9	4.8
その他の合板	528	105.0	81.6
うち木質複合合板	366	107.0	56.6

図10 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成22年12月31日現在の木材チップ工場数は1,577工場で、前年に比べて86工場（5.2%）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は352工場で、前年に比べて1工場（0.3%）減少し、「製材又は合単板工場との兼営工場」は1,225工場で、前年に比べて85工場（6.5%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は2,851人で、前年に比べて4人（0.1%）増加した。

また、1工場当たりの従業者数は1.8人で、前年に比べて0.1人（5.9%）増加した。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
（平成22年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数 人
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	1,577	94.8	1,398	130	40	9	2,851	100.1	1.8
木材チップ専門工場	352	99.7	197	110	37	8
製材又は合単板工場との兼営工場	1,225	93.5	1,201	20	3	1

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成22年の木材チップ用の素材入荷量は415万1千m³で、前年に比べて26万6千m³（6.0%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は412万1千m³で、前年に比べて27万6千m³（6.3%）減少し、外材の入荷量は3万m³で、前年に比べて1万m³（50.0%）増加した。

（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

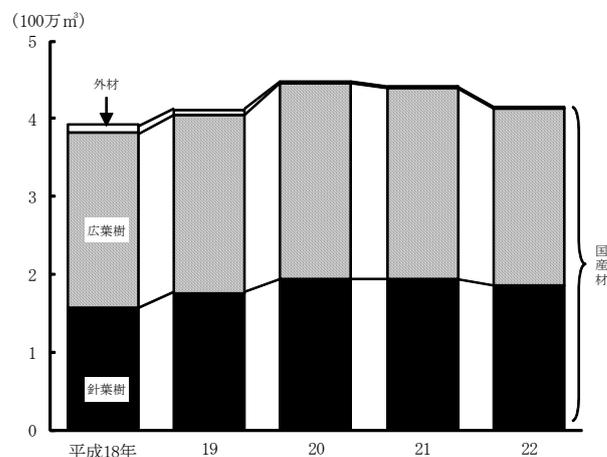


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニュージランド材	その他
平成22年	4,151	4,121	1,859	2,262	30	1	1	20	2	x	7	
対前年比 (%)	94.0	93.7	96.5	91.6	150.0	50.0	50.0	333.3	66.7	x	87.5	
構成比 (%)	100.0	99.3	44.8	54.5	0.7	0.0	0.0	0.5	0.0	x	0.2	

単位：千m³

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成22年の木材チップ生産量は540万7千tで、前年に比べて27万8千t（5.4%）増加した。

これを原材料別にみると、「素材(原木)」、「工場残材」、「林地残材」及び「解体材・廃材」において、前年に比べてそれぞれ1万t（0.4%）、15万t（8.9%）、2万5千t（23.1%）、9万3千t（10.0%）増加した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は278万6千tで、前年に比べて18万8千t（7.2%）増加し、「広葉樹」は159万4千tで、前年に比べて3千t（0.2%）減少した。

（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	平成22年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量	5,407	105.4	100.0
原材料別			
素材（原木）	2,408	100.4	44.5
工場残材	1,839	108.9	34.0
林地残材	133	123.1	2.5
解体材・廃材	1,027	110.0	19.0
針葉樹・広葉樹別			
針 葉 樹	2,786	107.2	-
広 葉 樹	1,594	99.8	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移

